

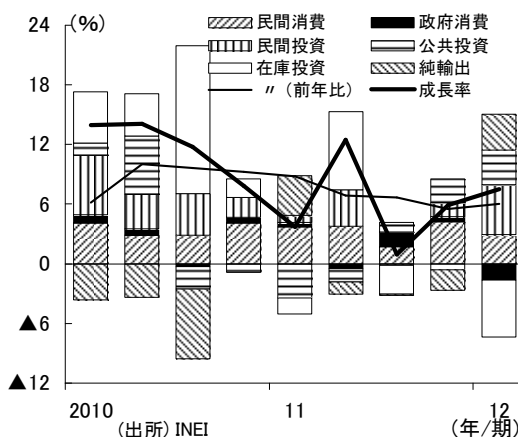


成長加速したペルー経済

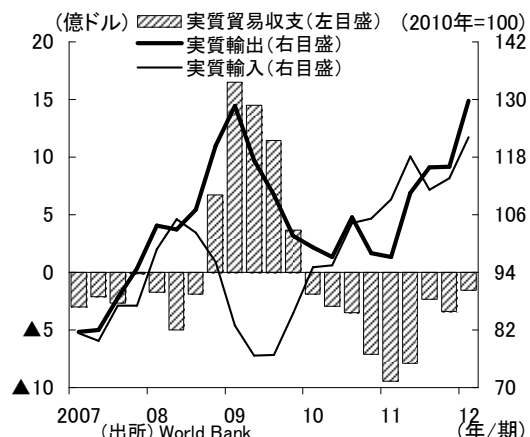
～ 牽引役は投資と外需 ～

- (1) 2012年1～3月期、ペルー経済が成長加速（図表1）。前年比実質成長率は、昨年10～12月期の5.5%から6.0%へ若干の加速。季節調整を施してみると成長加速が鮮明。前期比年率でみた実質成長率は、昨年7～9月期の1.0%を底に10～12月期5.9%、本年1～3月期7.5%へ。本年1～3月期のGDPは昨年年間比3.8%増。4～6月期以降前期比1%の低成長でも、本年の成長率は実質6%前後に。
- (2) 成長加速の牽引役は資本形成と輸出。まず輸出をみると、昨年初をボトムに急回復（図表2）。本年1～3月期には実質輸出が既往ピークの09年1～3月期を凌駕。一方、景気加速を映じて輸入も盛り上がり。もっとも輸出の増勢が輸入を上回り、実質貿易収支の赤字幅は本年に入って縮小。外需が成長加速に貢献。
- (3) 輸出以上に民間投資と公共投資の固定資本形成が成長寄与。昨年10～12月期と本年1～3月期の寄与度は民間投資が1.4%から5.0%、公共投資が2.4%から3.5%。民間消費が底堅い増勢を持続するなか、投資が盛り上がり。とりわけインフラ整備が進展。産業別GDPから建設業の実質付加価値生産額、および建設工事に直結するセメント販売量をみると、両者は従来連動して推移するなか、昨秋来、増勢加速。さらに季節調整の歪みで昨年12月からセメント販売量に大きな変動がみられるものの、本年3月の大幅増から推せば、引き続き底堅い建設動向が展望。
- (4) 近年の投資盛り上がりは外資流入が起爆剤。対内直接投資は、2009年秋以降、一進一退だったものの、本年1～3月期、再び大幅増（図表4）。本年1～3月期の対内証券投資は80億ドルと既往最大へ。昨年6月の大統領選を経て同国は政治的安定を維持。外資の投資スタンスは、様子見から再び積極化。消費と投資の内需の2本柱に加えて、外需が成長に寄与し、本年の同国経済は6～7%の高成長持続の公算大。

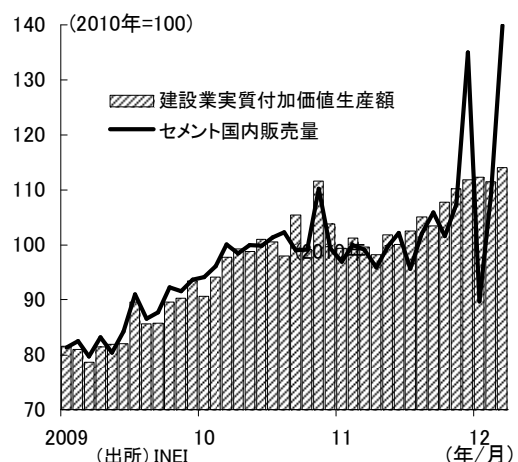
（図表1）ペルーの実質経済成長率（季調済年率）



（図表2）実質貿易収支と実質輸出入（季調済）



（図表3）建設業実質生産額とセメント販売（季調済）



（図表4）対内対外直接投資と証券投資

